

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制支援学校 高等部（知的障がい・肢体不自由） 小、中学部（肢体不自由）
取り組む課題	児童生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・DAISY図書・紙芝居・パネルシアター・読み聞かせ等を活用した授業や休み時間等の図書室利用件数の増加 ・年間の本等の貸出し数の増加 ・児童生徒、保護者の学校満足度の向上 ・センター的機能を発揮した学校外支援件数の増加（地域連携と情報発信）
計画名	BOOK FOREST ～おはなしの森～ プロジェクト [さまざまな障がいや発達段階の児童生徒に応じた読書環境の基礎的環境整備]

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 子どもの障がいに応じた支援を図るための、教員の専門性の向上と授業改善の工夫</p> <p>(2) ウ 表現力を高め、創造力を豊かにする読書環境の充実と、子どもの主体的に「生きる力」を育む読書活動の推進。</p> <p>4 関係機関との連携強化による開かれた学校づくりと支援学校のセンター的機能の発揮</p> <p>(1) 支援チームで巡回相談や教育相談や講師派遣を展開し、障がいのある子どもが地域で学ぶ体制づくりを推進。</p>
事業目標	<p>児童生徒一人ひとりの自己肯定感の向上と生きる力を高めるための読書活動・読み聞かせ活動ができる基礎的環境整備</p> <p>『第3次大阪府子ども読書活動計画』の基本方針に基づき、本に親しみ読書の楽しさと大切さを知り自発的な読書活動や読み聞かせ活動を行うことができる環境整備に取り組む。</p> <p>1 重度重複の障がいのある児童生徒が様々な感覚を培って読書活動・読み聞かせ活動ができる「おはなしスペース」の整備。</p> <p>2 様々な障がいや発達段階の児童生徒に応じた書籍(DAISY図書や視聴覚教材を含む)の準備と読書活動の推進</p> <p>3 印刷物障がい(読字等困難)のある児童生徒のためのマルチメディアDAISY等の読字支援アプリによる読書支援</p> <p>4 ページめくりが困難な運動障がいのある児童生徒のためのDAISY図書・電子書籍と自助具等を組み合わせた環境設定</p> <p>5 書画カメラ等を導入した視覚支援によるグループ学習の推進。</p> <p>6 地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校等に在籍する印刷物障がい等の幼児児童生徒に対する相談支援体制の構築</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ○書籍関係 ○視聴覚関係 ○書棚等 ○ICT関連 ○施設設備改修関連
取組みの 主担・実施者	<ul style="list-style-type: none"> ○総務 教頭 ○事務 事務長 主査 ○基礎的環境整備・業務等統括 首席4人 ①教務部・研修部 ②支援部・自立活動部・文化情報部視聴覚係 ③生活指導部 ④進路指導部 ⑤ボランティア活用等 ⑥授業等における活動推進（司書教諭、各学部主事、学年、担任団）
本年度の 取組内容	<p>1. 校内の取組みについて</p> <p>◎ 図書室の昼休みの開館日(貸出日)について</p> <p>H27年度は児童生徒会による貸出が2週に1回がH29年度は毎週になる。図書館システムの導入に伴ってバーコードによる図書の貸出を開始した。書字の出来ない児童生徒も貸出業務に積極的に参加し、楽しんで活動を行えるようになった。</p> <p>◎ 小学部・中学部・高等部より1名ずつ計3名の司書教諭の配置し、本に親しみ読書の楽しさと大切さを知り自発的な読書活動や読み聞かせ活動を行うことができる環境整備に取り組む。教務部図書係と生活指導部児童生徒会係により蔵書管理や図書貸出業務を行っている。また週1回程度のボランティアにより貸出業務の補助および蔵書整理。</p> <p>2. 他機関との連携</p> <p>◎大阪府立中央図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別貸出しセットや展示セットを定期的に貸出協力について 1 学期：環境セット(動物)と乗り物セット 2 学期前半：芸術関係セットとスポーツ関係セット 2 学期後半：クリスマス、世界の国々のセット ○教員向け研修(読み聞かせ及びデジタル図書について) 7/25 ○PTA学習会(読み聞かせ及びデジタル図書について) 11/22 <p>◎四條畷おはなしの会(ボランティア)年3回来校しおはなし会を開催</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>①学校教育自己診断アンケート(保護者・教員向けによる評価)</p> <p>肯定的回答 保護者 昨年度38.0% 教員昨年度43.3%</p> <p>②児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価</p> <p>③活用状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間における図書室利用状況について(課業期間) H27年度26.3% ・前年度の学校図書標準達成状況は小学部55.4%、中学部34.0%である。 ・学習障がい等の児童生徒のタブレット稼働率51%以上をめざす。
自己評価	<p>①学校教育自己診断アンケート(保護者・教員向けによる評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答：保護者40.8%(昨年度38.0%) (○) 教員78.7%(昨年度43.3%) (◎) <p>②児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価(記述式) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、クラス活動で使った。・使用していない時間に行き、いろいろな本を見た。床に降りられるのが良かった。 ・たくさん行って借りた本をクラスみんなで読んだ。・iPadをたくさん使った。 <p>③活用状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内における図書室利用は、H27年度27.3%からH29年度4月～2月で58.9%に上昇。授業以外でも児童生徒の居場所作りに利用しているケースが多数ある。行事日以外は、ほぼ毎日の利用がある。(◎) ・学校図書標準達成状況は(小学部)：79.7% (中学部)：49.8%(○) ・学習障がい等の児童生徒のタブレット稼働率は図書室利用率58.9%以上。(○)
次年度に向けて	<p>○校外へ蔵書および視聴覚関連物品の周知と活用の推進→</p> <p>① 地域支援整備事業のブロック会議の場において、市町村教育委員会等に活動について情報提供する。</p> <p>② 交流相手校(小学部 石切小学校 中学部 石切中学校)にデジタル図書等について情報提供し活動を展開させる。</p> <p>③ 3年間の活動を冊子にまとめHPや関係諸機関に配付し周知する。</p> <p>OPTAIにむけて情報発信</p> <p>① 昨年実施したPTA学習会の結果をもとに、PTA役員会と相談しPTAが活用(貸出を含め)しやすい環境を整備する。(蔵書の公開等)</p> <p>○蔵書管理や整備などは今年度同様、ボランティアも活用して実施する。</p> <p>○今年度同様、学期に一回程度絵本の読み聞かせ会をボランティアを活用し学部や全校児童生徒を対象に実施する。</p>